

☆☆☆ Library Eye 2021 ☆☆☆

第23号 2022年2月1日(火)

発行元 明星中学校・高等学校 図書館



【自分が目指すのは、何学科？】



長期にわたるコロナ禍の中、高3生の進路決定もそろそろ終盤を迎えています。そして、在校生にとってはよいよ受験が自分事になる季節になりました。

その中でも大学進学を目指し、どの分野に進むか迷っている人におすすめの本を2つ紹介します。まずはペリカン社の『なるにはBOOKS 大学学部調べ』というシリーズで、各学部について知りたいこと、例えばどんなことが学べるか、卒業後の進路、受験までにすべきこと、キャンパスライフなどを、卒業生や教員へのインタビューをまぜながらQ&Aというかたちで解説しています。そしてもうひとつは、KADOKAWAの『大学4年間の〇〇が10時間でざっと学べる』というシリーズで、文字通り大学で学ぶ授業内容が大まかにまとめられています。自分に向いているのは何学科なのか? の判断材料になります。また、最近は学部を超えて授業を選択できる大学が増えてきていますので、入学後も役立つのではないのでしょうか。現在、**データサイエンス・哲学・国際政治学・経済学・経営学・社会学・統計学・マーケティング西洋美術史**の9種類のテーマの本を所蔵しています。

このほかにも図書館では、進路に関してもいろいろな本を揃えています。興味のあることを掘り下げて将来の仕事を選ぶ人、収入面から特定の職業に興味を持つ人、子どもの頃には存在すらしなかった仕事に惹かれる人。特に、中高生というこの時期に、たくさんの知識に触れてほしいと願っています。

【もうすぐバレンタインデーです♡】

2月14日はバレンタインデーです。コロナ禍以前は、バレンタインデーが近づくと、チョコレートやクッキーなどのレシピ本の貸し出しがとて多くなりましたが、今年は手作りをプレゼントするのは残念ながら難しい状況です。日本では、バレンタインデーに女性が男性へチョコレートをプレゼントすることが一般的でしたが、次第に家族やお世話になっている人、友達へ贈る人が増え、最近では、頑張っている自分へのご褒美に購入するという人々もいて、だいぶ様変わりしています。この時期になると、様々なチョコレートが店頭並び、チョコレートが好きな方々には嬉しいシーズンですね。

そこで、図書館に所蔵している本の中から、チョコレートに関連したいくつかの本をご紹介します。まずは、『**幸福のチョコレートを探しにどこまでも**』(木野内美里・新潮社)です。これまでに300種類以上の日本未上陸のチョコレートを紹介してきたチョコレートバイヤーが、これまでに訪れた28か国の中から様々なチョコレートや個性豊かなショコラティエとの出会いを紹介しています。小説では、『**チャーリーとチョコレート工場**』として映画化された『**チョコレート工場の秘密**』(ロアルド・ダール・評論社)や『**チョコレート・アンダーグラウンド**』(アレックス・シアラー・求龍社)は、ユニークで大人でも楽しめる作品です。変わったところでは、『**チョコレート検定公式テキスト**』(株式会社明治[監修]・学研)があります。この検定は、お菓子メーカーの「明治」主催で、2016年から始まりました。受験資格は「チョコレートが好きな方ならどなたでも」です。興味のある方は、挑戦してみるのも楽しそうですね。

どうか来年は、心置きなくプレゼントをしあえるバレンタインデーでありますように……。



【大学入学共通テスト速報～図書館バージョン～】

1月15日(土)・16日(日)に実施された大学入学共通テストは、初年度の昨年よりもさらにその方向性が明確になってきたようです。

特色① 会話文、複数の資料やデータを用いて多角的な観点からの考察ができるか。

特色② 長い問題文の中から必要な情報を整理しながら読み解けるか。

特色③ 速く文章を読んで理解できるか。

なかでも数学は5ページも増えて、長い問題文を読み解くことが要求されました。しかも、その内容が日常生活ではとうていありえないような内容で、試験が終わった瞬間にエンピツを折った受験生もいたとか。

国語もクセの強い問題が多く、とりわけ第1問の【文章II】は「あなたは豚肉です」という断り書きが付いていて、豚肉にされた受験生は、最後は更になって下水に流されてしまいます。受験生からも「ぼくは……ブタ……ニク……???'という悲鳴に近い感想が寄せられていました。

この問題の当否はともかく、出題形式の変化は、21世紀の社会が何を求めているのか、日本の教育はどのように変わっていく必要があるのか、といったことを示唆しているように思われます。

【東大王・伊沢も不合格?】



Eテレで放映された『世界の入試で未来が見える!』は、とてもユニークな番組でした。東大出身の**伊沢拓司**や、現役高校生の**本田望結**、お笑い芸人の**福田麻貴**らが世界の大学入試にチャレンジするという内容で、第1問は、ノーベル賞の受賞者を94人も輩出しているシカゴ大学で出されたエッセイの問題でした。

「あなたにとって水曜日とは?」

テーマは8月上旬に公開され、受験生は約3~5ヶ月かけて答案を書きます。**この試験の狙いは「創造性」「爆発力」のある人材を求め、評価のポイントは、第一に文章力(読ませる力はあるか)、第二にイノベーション力(物事の見方は柔軟か)、第三に没頭力(一つのことにのめりこめるか)の3点です。**

採点は、中部大学で教鞭を執る化学者で、シカゴ大学名誉教授も務める**山本尚教授**が行ったのですが、**伊沢拓司**の答案は「不合格」の烙印を押されてしまいました。

山本教授が指摘したのは第一に「文章力がもう一つ」という点です。その一端を挙げれば「~だろう」「~かもしれない」「ように思う」「~もあり~もあり」といった不確実な表現が多かったことです。第二に「今の仕事を愛していることが伝わってこない」という点です。例えば「水曜日は山頂のような存在で、2日働いた疲労感があり、ここからの長い道のりにうんざりする」といったような表現があり、ここから「仕事に対する愛情が感じられない」という判断が下されてしまったのでしょうか。

唯一「合格」だったのは、**本田望結**でした。**山本教授**が絶賛したのが「イノベーション力」で、それが表れていたのが「私の中のカレンダーに、水曜日は存在しない」と言い切らせていただきます。」という最後の一文でした。タレント、俳優業、高校生という多忙な生活をアクティブに送っていると、いつのまにか曜日の感覚がなくなってしまうというのですが、このエッセイからは、仕事に対する感動といった「没頭力」も伝わってくると、高い評価を得られたのです。

現在、日本の受験生は「記憶力」を磨くことに懸命ですが、その土俵ではA1に勝てるはずがありません。一方、世界トップレベルの大学をめざす受験生は「人格」を磨くことに時間をかけています。

令和4年の大学入学共通テストの平均点は過去最低の結果に終わりましたが、その原因は、コロナ禍で満足に学校生活を送れなかったからなのか、はたまたギアチェンジされた問題に慣れていなかったからなのか、いずれにしても、その変化の先にあるものを見据えた教育にシフトアップしていくことが必要でしょう。

